

第26回 RIDCマンスリー研究セミナー

力士と手形

ー 記録と魔除けの視点からー

スピーカー

岡山大学社会文化科学学域 准教授

大久保 範子

日時

2023年9月27日(水)

12:00～13:00

場所

オンライン開催

大相撲には力士が手形を押し、縁起物として品屋客などに配る慣習があり、多くは朱色や黒い墨で色紙などに押し、特に四股名のサインが入った形式である。一方でその起源や由来については確定的な資料は残されておらず、尚然と“縁起物”として受け入れられている状況にある。

江戸時代の文獻や浮世絵をたどると、力士の手形は江戸幕末相撲の巨人力士に端緒があるように思われる。巨人力士とは土俵入りを専門に行う、いわば見物物的な役割を担った力士のことで、彼らは品屋客の求めに応じその人差し指を外れた手形を押ししていたが、この時点で縁起物としての意味が期待されていたかは明らかでない。

本発表では、力士と手形の関係に焦点を当て、その起源と現在に至る過程、また記録から縁起物へと転じていった経緯について考察を試みる。

お申し込み先 <https://forms.gle/DZTrj5VghvcaHL5XA>

お申し込み締め切り 9月26日 12:00

お問い合わせ先 文明動態学研究所 ridc@okayama-u.ac.jp



*オンライン開催のため、ご参加希望の方は事前申し込みをお願ひします。お申し込み、事後申し込みをお断りします。



岡山大学 文明研

第26回 RIDCマンスリー研

力士と手形

— 記録と魔除けの視点

スピーカー

086-251-7442

086-251-8463
